

2020.03.02

前同門会会長退任挨拶

退任にあたって

前九州大学医学部第三内科同門会会長 合馬 紘

令和時代の初めての新年を同門会の皆様には清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。同門会活動にいつもご支援いただいていることに深く感謝しています。

さて、私は昨年の11月の同門会総会におきまして7年間務めさせていただいた会長職を退任致しました。長い間、副会長として支えて下さった梅田文夫先生を会長に推薦し総会で御承認いただきました。梅田先生は二度の医局長そして助教授等教室の要職を長く務められ同門会の仕事を誠心誠意ずつと取り組まれた教室愛が強く責任感のある方で力強い継承が出来たと大変嬉しく思っています。思い起こしますと私は医師としての原点である第三内科に、大学紛争がやっと終焉した頃でしたが、第4代教授井林先生がご着任された昭和46年に入局し、その後同門会の仕事を誇りと使命感を持って30年以上させていただいたことに感謝の気持ちで一杯です。歴代会長を始め多くの先輩達から三内魂を叩き込まれ同門会員の親睦融和、相互扶助そして母教室の発展充実に幹事の皆様と楽しく充実感のある会務を担当して参りました。会長に就任してからは第6代教授の高柳先生が大学本部の仕事で重責を担われ多忙ななか御退任され、その後かなりの期間教授不在の時を経て第7代教授に小川先生をお迎え致しました。同時に開講100周年を迎え盛大に祝賀会を開催し、大きな節目の時を経験させていただいた事は生涯忘れられません。そして記念誌として碑（いしぶみ）Ⅱをこの50年の教室の歴史を中心に編纂して発行することが出来ました。このようにこの7年間は第三内科教室と同門会にとって大変な時でありましたが全て円滑に実行出来たのは同門会幹事、教室員、事務局全ての方々のおかげと感謝しています。

小川教授は開講100周年を迎えたあと新たな100年に向かって強い使命感を持って全身全霊で教室の発展に取り組んでおられることに心から敬意を表したいと思います。医学医療を巡る状況は少子超高齢社会の到来、科学技術の急速な進展により私達の予測をはるかに上回るスピードで変革が進んでいます。このようななか小川教授には100年の伝統をもった第三内科の守るべきものは守り、一方で思い切った改革を実行して教室員一丸となって第三内科の一層の発展充実を進めていただきたいと心から願っています。特に同門会には梅田会長を中心にして幹事会の皆さんが会員のニーズにしっかり対応した活動を展開して求心力のある魅力ある同門会づくりに邁進し、教室を支援していただきたいと願っています。特に明日の教室と同門会を担う若い世代の諸君が自己研鑽のなかで遅く成長することを念じています。私の人生においてかけがえの無い第三内科同門会の発展を心から祈りながら退任の挨拶とさせていただきます。長い間皆様には大変お世話になりました。衷心より御礼申し上げます。
